



かえで

夢と笑顔と「ありがとう」が
あふれる 上里東小学校
令和2年10月 1日
第 9 号

秋を迎えて

暑かった夏も過ぎ去り、秋の訪れを迎えました。10月は天候も安定し、(近年は異常気象ですが) 過ごしやすい時期でもあります。「スポーツの秋」「読書の秋」「芸術の秋」「食欲の秋」、いろいろな秋がありますが、今年の秋は、例年の秋とはひと味違った秋となりそうです。様々な制約等がある中ですが、子供たちにはいろいろな体験をとおして、秋を味わってほしいと思います。



体験したことを学びにつなげる

「体験」→「経験」→「学び」→「能力」

「体験」したことによって、自分の中で気づきや発見があったり、感情的な動きがあったりする過程で、「体験」が

「経験」となっていくます。この「経験」をもとに他の「経験」と結び付けたり、外部から取り入れた知識・情報などと関連付けたりして、共通点や相違点を見出したりすることで「学び」へ高まっていきます。そして、「学び」の中で様々な「能力」(認知能力・非認知能力)が獲得されたり、向上したりしていきます。「体験」をとおして、このような流れの学習が子供たちに提供できればと考えております。<1年生の例を紹介します>

虫取りを体験しました



虫取り体験から出発した学習が、絵日記や虫の飼育、図工の絵を描く学習へとつながっていきます。また、虫取りで虫に対する興味・関心が高まり、本で知識を深める活動につながる事が期待されます。

虫取り体験を振り返り、絵と文で表現します。



本を通して理解が深まります。



虫の飼い方を話し合いました。



思い思いの絵が完成します。

「準備」する力

9月9日（救急の日）に2回目の避難訓練を実施しました。今回は、休み時間に大きな地震が発生したことを想定した訓練でした。休み時間ですから、子供たちは校庭で遊んでいたりと、教室で遊んでいたりと様々です。そのような状況の中で地震が発生したらどうするか。適切な行動が取れるかどうかの訓練です。

<ポイント①>地震が起きたときに、その場で安全が確保できること。安全な場所で座って揺れがおさまるのを待つ。落下物、倒壊物に注意する。

<ポイント②>揺れがおさまったら、指定された場所(避難場所)に素早く安全に避難できること。

避難訓練の目的は、「準備」する力を付けることではないかと思います。災害等は、いつ・どこで起きるか予測するのが難しいものです。平常時から模試のことを想定して、物的な準備と心（気持ち）の準備をしっかりとしておくことが、自分の命を守ることになるのではないのでしょうか。万全な準備があれば、いざというときにも、的確な判断・行動ができるものと思います。



机の下に避難する児童



3年生 国語の授業で

フェイスシールドの活用

新型コロナウイルス感染防止を図りながらの授業は、制約も多く大変です。そのような中でも、児童が仲間との関わりを持ちながら学びを深めていけるよう試行錯誤が続きます。児童が小グループとなり、対話等をとおして学び合う活動については、マスクとフェイスシールドの着用で取り組んでいます。フェイスシールドは、音楽の授業や給食の準備等にも活用することがあります。

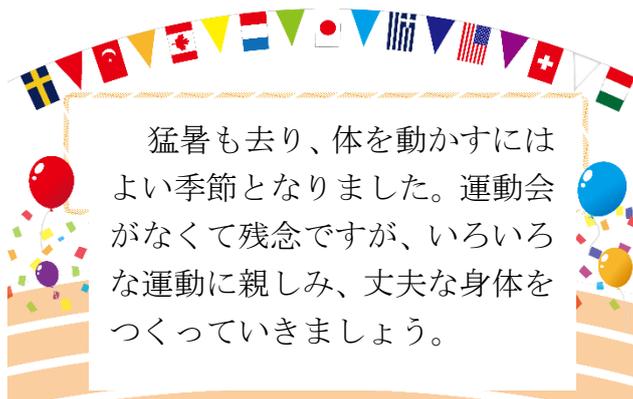
教育実習を終えて

大学では日頃から教師になるための勉学を一生懸命に行ってきました。しかし、学校現場に入ると、大学で学んだ知識を実際に行動で表現することは難しいことだと思いました。教師という仕事は、知識のみで成し遂げられる仕事ではないということを実感しました。

また、実習をとおして現場で働く先生方から学んだことがあります。それは、1時間の授業中で課題を提示し、まとめに結び付けることです。教師1人に対し、1クラス約30人と向き合うため、一人一人にしっかりと目を配ることの大切さを知ることができました。(実習生 森川 雄太)



3年1組での授業実践(算数)



猛暑も去り、体を動かすにはよい季節となりました。運動会がなくて残念ですが、いろいろな運動に親しみ、丈夫な身体をつくっていきましょう。

上里の子供たちを育てる合言葉「あいさつ、返事、靴そろえ、集中した清掃(膝つき清掃)